

ばんちょう

番町地区

面積：1.38km²

人口：3,887人（高齢化率 29.6%）

世帯数：2,203世帯

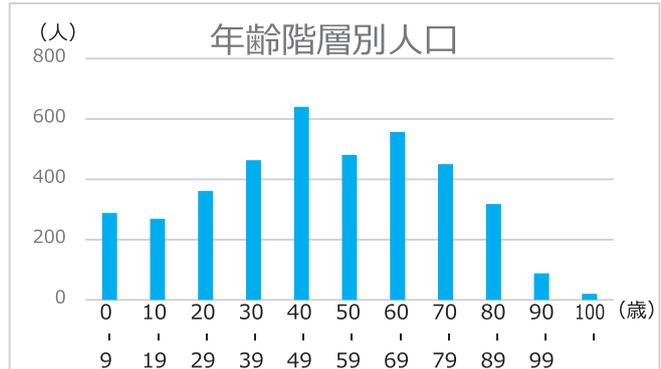


【地区の特色】

松山市の中心に位置し、官公庁・金融機関等のオフィスビルが建ち並び、大街道・銀天街・まつちかタウンのショッピングゾーンは連日買い物客でにぎわっている。一方、ドーナツ化現象のため人口は流出傾向にあるが、地域住民の強力な結束を基に、文化・スポーツ活動等が活発に行われている。



松山城と官公庁などのオフィスビル



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・街中なので夜も明るい ・交通機関の利便性がよい ・医療機関が多い ・柳井町町内会では近所付き合いが盛ん ・ゴミ出しなど町内ルールが守られている
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーが少ない ・近所付き合いが希薄
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯の増加 ・スーパーが少なく、高齢者等の買い物が困難 ・マンションが増え、オートロックマンション等により地域の情報周知が困難 ・交通量が多く、危険 ・集いの場が少ない ・近所付き合いが希薄

番町地区社会福祉協議会

<拠点> 松山市二番町4丁目3-4（松山市番町福祉センター内）

構成団体	地区民協	
主な取り組み	活動内容	
高齢者と園児の交流遠足	高齢者と園児とのいちご狩り遠足を実施しています。	
高齢者への記念品の配布	地区の80歳以上の高齢者を対象に記念品を配布しています。	
小学生と高齢者の交流	小学1年生と高齢者が昔の遊びを通して交流を深めています。	

お茶会（2月頃）

地域の高齢者、保育園児とその保護者が一同に会しお茶会を実施しています。園児が高齢者や保護者へお茶のお接待をするなど、毎年、園児たちの成長と高齢者の笑顔がひろがっています。



<地区社協が目指すもの>

松山市の中心地に位置する地区のため、諸々の活動に便利な点を活かして近隣地区とも協力し、子どもから高齢者まで住民一人ひとりが社会福祉に参加し、地域内の助け合いの気持ちを育てていける地区を目指します。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	11名 2名	■町内会・自治会・区長会等	35団体
	■まち協の設立	—	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	1クラブ 11団体 33組織

官公庁とオフィスビルが建ち並ぶ働く人のまち、または銀天街や大街道等のショッピングのまちといったイメージが強い地区です。小学校や保育園においても市内全域から児童や園児を受け入れていることが特徴としてあげられます。そのスマートな地区のイメージは、ゴミ出しなどの町内ルールが守られている等住民の意識の高さにも共通していると考えられます。地区社協では小学生や園児と地域の高齢者との交流を積極的に行っています。他地区からも子どもが多く集まる保育園で高齢者との接点を設けることは核家族化の進む現在において高齢者だけでなく子どもにとっても学びは多く、地区社協の取り組みによって市街地ならではの生涯学習を実現しているといえます。

ココがポイント



やさか

八坂地区

面積：0.57km²

人口：5,129人（高齢化率 32.1%）

世帯数：3,214世帯

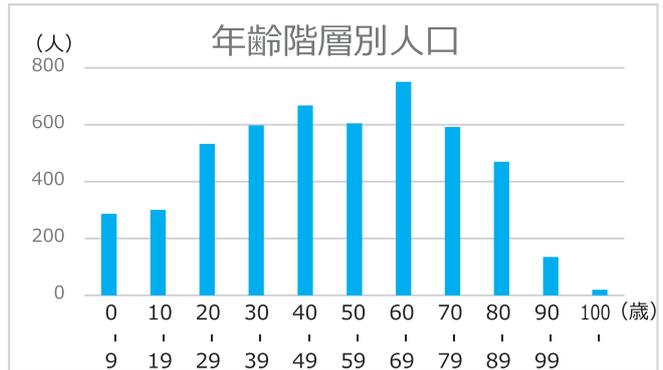


【地区の特色】

八坂の名の由来は京都の祇園神社にまで遡ることができる。明治27年12月5日に南八坂町に松山第3尋常小学校が開校し、持田や素鷺の方からも子どもたちが通っていた。この頃から通学区域を八坂校区と呼ぶようになった。現在の八坂校区には30の町がある。行政上の住所表示と異なり、昔からの町名の多くが残っているのがわが町「ふるさと八坂」。人々の交わり地方祭をはじめとする諸行事など生活上の様々な面で、今もそれぞれの街で昔からの強い絆を守りつづけている。



中の川通り



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・松山市の中心部（街中）に位置し、飲食店などが多く存在している ・コンビニ、駐車場が多い ・デパート（大街道、銀天街）が近い ・サロン活動が活発 ・元気な高齢者が多い ・教育施設が多い ・市中心部にありマンションが増えている ・街中で蛍が見られる ・近所の子どもの顔が分かる ・子どもとの交流が多い ・高齢者の福祉施設が多い ・公民館と学校の連携が強い ・公民館行事が多い
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率が高い ・子どもがいる世帯が少ない ・交通量が多く危険 ・個人商店が少なくなり、スーパーが少ないため買い物が不便 ・市役所の支所がない ・個人商店が少なくなった
地域が抱える福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者世帯の増加による見守りが必要 ・昔からの住民と新しい住民の交流が少ない ・マンション世帯との交流が少ない ・交通量が多く危険 ・子どもがいる世帯が少ない ・組織役員の後継者不足

八坂地区社会福祉協議会

気配りの種まき 福祉の芽が出る明るい八坂

構成団体	地区民協・公民館長・婦人会・高齢クラブ・町内会・小学校・PTA	
主な取り組み	活動内容	
福祉だよりの発行	年2回、2,000部を作成し、地域福祉に関する情報を発信するため全戸配布しています。	
独居高齢者親睦会	外出の機会が少ない独居高齢者を対象に毎年1回、親睦会を開催しています。	
配食サービス	毎年、3月3日の春の節句に独居高齢者へちらし寿司を配布し安否確認等を行っています。	

やさかちいきふれあいパーティー（年2回）

八坂小学校にて1・2年生の児童と地域の高齢者が昔の遊びやゲーム・クイズ、劇の発表などを通して、ふれあう機会となっています。また、給食も一緒に食べながら話が弾み、お互いの心に残る楽しく有意義な時間を過ごしています。

**<地区社協が目指すもの>**

八坂地区ではホタルボランティアの人たちが蛍を長年育てており、地区の夏祭りや小学校と公民館の合同運動会では、地域の各世代の人が八坂音頭を「みんな輪になり」で踊り継いでいます。

八坂地区社協では高齢者が健康でいきいき活動し、これまで培ってきた緑豊かな自然や人の輪を大切に、少子高齢化の中でも子どもから高齢者まで世代を超えて見守り・支えられるよう元気で心豊かに生活できる八坂を目指していきます。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	16名 2名	■町内会・自治会・区長会等	28団体
	■まち協の設立	平成25年度	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	4クラブ 5団体 25組織

市街化の進む自治体の多くは人間関係の希薄化への対策が課題となる中で、本地区では地区社協が中心となって活発な地区内交流が実施されています。中でも住民が近所の子どもの顔がわかるという環境は、生涯学習や防犯等の面において理想的な子育て環境を実現しているといえるでしょう。このように40地区の中で一番面積の小さな地区であることをいかして、地域と小学校が協働で行事が実施されるほか、小学校内のスペースで高齢者が定期的にサロン活動をするなど、世代間の交流が深まる機会が設けられています。これらの基盤となる交流活動を支える地区社協の役割は地区内でますます欠かせないものとなるでしょう。

ココがポイント



しのめ

東雲地区

面積：1.21km²

人口：8,960人（高齢化率 27.2%）

世帯数：5,122世帯

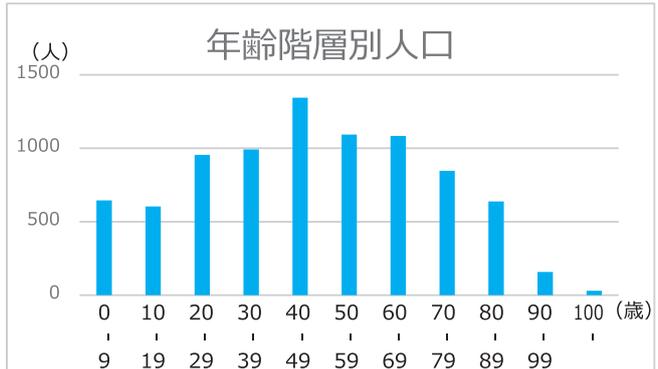


【地区の特色】

松山城を仰ぎ市の中心部に位置し、交通の便も良く気象台・中予地方局・警察署・松山赤十字病院をはじめ、高層マンション等ビル群に囲まれ、教育機関も幼稚園・小学校・中学校・高校・大学等その数多く、文教・商業・住宅地域として発展している。また、坊っちゃん列車が走り小説「坂の上の雲」の主人公・秋山兄弟の生誕地でもある。



心は一つ・絆



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・市の中心部に位置し、バス・路面電車が走るなど交通の便が良い ・松山城、秋山兄弟生誕地、明教館など観光、文化、教育施設に恵まれた文教商業地域 ・日赤松山病院など医療機関が多い ・一時減少傾向の人口は増加傾向にある ・地域の子どもたちの見守り活動が盛んである ・行政機関（地方局等）が多い ・松山東警察署
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・高層分譲マンション増加によるコミュニケーション不足（町内会未加入） ・スーパーが少ない ・マンション増加で景観が悪い ・電気屋がない ・自動車の増加による危険度が高い ・道路が狭い（戦災にあっていないので昔のままの道幅） ・新しい住民とのコミュニケーションが図りにくい ・学生の多い賃貸マンションのゴミ出しルールが守られていない ・市役所の支所がない
地域が抱える福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯の増加 ・マンション世帯の増加によりコミュニケーションがとりにくい ・スーパーが少なく買い物に困る ・道路幅が狭く危険 ・支える側の人材不足 ・各組織の連携

東雲地区社会福祉協議会

支えあう力で、明るく、元気な地域づくり

<拠点> 松山市二番町4丁目3-4 (松山市番町福祉センター)

構成団体	地区民協・町内会連合会・共同募金会・公民館・小学校・交通安全支部員・婦人会 高齢クラブ連合会・更正保護女性部会・子ども会連合会・スポーツ推進員	
主な取り組み	活動内容	
福祉だよりの発行	年2回、6,800部を作成し、地域福祉やわが街自慢など地域に関する情報を発信するために全戸配布しています。	
日帰りツアー	東雲校区住民で50歳以上の方を対象に、隔年日帰りで各地の名所へ出かけしています。普段、なかなか出かけられない方から好評を得ています。	
高齢者パソコン教室	高齢者を対象にパソコンの使い方教室を開催しています。	

認知症予防講座（認知症プログラム）

NPOとの連携のもと、地区住民を対象に、苦手なことに楽しくチャレンジしながら五感を使い、身体を動かしながら脳を刺激することで認知症予防となる講座を開催しています。



<地区社協が目指すもの>

東雲地区は、多くの史跡、文化財に恵まれた市の中心部に位置し、交通の便も良く、地域周辺にはコンビニをはじめ病院や保健福祉施設、警察署等の立地など住環境に恵まれる中、高層分譲マンション建設等により新たな住民の流入に加え、少子高齢化の進展が著しくなっています。

今後は住民同士の繋がりやふれあいを高め、「地域はひとつ」の絆を高めるため、民児協、町内会等各団体の協力・支援等により各種事業を展開し、子どもから高齢者まで明るく、いきいき生活できる地域づくりを目指します。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	23名 2名	■町内会・自治会・区長会等	40団体
			■高齢クラブ	8クラブ
			■子ども会	6団体
	■まち協の設立	—	■自主防災組織	31組織

観光資源に恵まれ、また、生活環境としても医療・教育等を含め住みやすいことが特徴です。地区社協では、平成30年度よりNPO法人と連携した4回コースの認知症予防講座を開催しており、地縁型とテーマ型の組織が繋がった活動を実践しています。市の中心部に暮らす子育て家庭では生活面の利便性の恩恵を受けると同時に、子どもの安全面に不安を抱えることも珍しくありませんが、本地区では子どもの見守りが盛んに行われており、住民が町を支えているといえます。新しい住民の流入が進む中で、地区社協の高齢者向けパソコン教室等の企画は、地区に馴染みのない方でも参加しやすく、今後の地区の在り方を考えるうえで先駆的な取り組みであると考えられます。

ココがポイント



そ が 素鷲地区

面積：2.23km²
人口：19,107人（高齢化率29.3%）
世帯数：11,305世帯

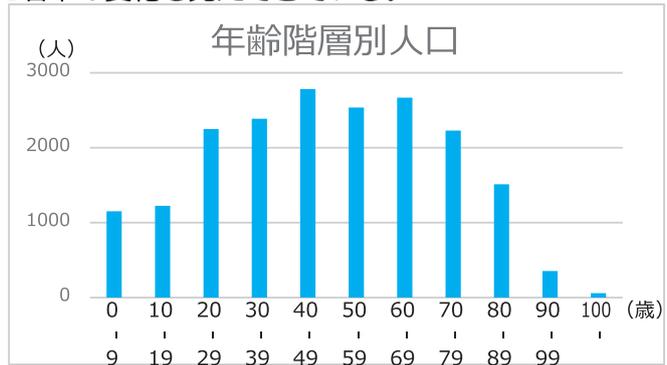


【地区の特色】

戦前は純農村地域であったが、近年市街地に隣接する地域として急激に住宅化が進み、通勤にも便利なためマンション等の建設も多く都市化が進んでいる。しかし、現在はそれ以上のドーナツ化現象のため、高齢化率も高くなり人口は横ばい状態となっている。そういう中であって、地域住民間の連帯感が薄れつつあり、近隣間のコミュニケーションがスムーズにっていない地域が増えるなど新たな問題が顕在化し、昔からの地域事情に若干の変化も見えてきている。



ドローン撮影：拓南中の全景



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的便利で市内外へも行きやすい ・市内の大きな病院を含め個人病院へも通いやすい ・高齢者の施設も多い ・教育関連機関や生活関連施設が多い ・公共交通の便がよく住みやすい ・民生・児童委員や公民館関係の方などみなさん協力的 ・地区社協の拠点がある ・若い世代の後継者が育っている ・商店街がある ・地区行事へ協力的で楽しい行事がある（どろんこ運動会） ・病院の中に集まれる場所がある ・登校時小中学生の見守り隊 旗当番（保護者）
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者世帯が多い ・空き家が増えている ・マンション住民との交流が少ない ・仕事など忙しく地域の手伝い等してくれる人の人材不足 ・役員代表者お世話人さん等の後継者が少ない ・道路が狭い（消防車、救急車が入れない） ・高齢者世帯が多い ・子どもの数が減っている
地域が抱える福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯の増加 ・マンションが多く、把握と見守りが難しい ・空き家の増加 ・組織役員の後継者不足 ・子どもがいる世帯が増えない

素鷲地区社会福祉協議会

石手川 南に広がる そが福祉

<拠点> 松山市小坂3丁目1-20 TEL / FAX : 089-931-2112

構成団体	地区民協・町内会連合会・共同募金会・公民館・サロン代表者・高齢クラブ連合会	
主な取り組み	活動内容	
福祉だよりの発行	年2回、7,800部を作成し、地域福祉に関する情報を発信するために全戸配布しています。	
そがの子まつり	小学生・児童・保護者・教員・地域住民等がもちつきなどの行事を通じて交流を図っています。	
認知症への理解	小中学生を対象に、絵本の読み聞かせや認知症理解のための寸劇を通じて認知症についての理解向上を図っています。	

福祉講座（10月頃）

福祉課題の中でテーマを変えながら地域住民を対象に福祉講座を開催しています。毎年、分かりやすい内容を提供していることから多くの地域住民の参加があり、好評をいただいています。



<地区社協が目指すもの>

素鷲地区は、2万人近くの人口となり高齢者が多く、特に独居高齢者や生活保護受給者は松山市で一番多くなっています。交通の便が良く買物や病院等へ通いやすく、生活関連施設等が多く住みやすく安心できる地区です。毎年、拓南中学校にて松山市消防城東支署の協力を仰ぎながら生徒と一緒に炊き出し、AED体験、ドローンによる撮影、マップ作りなどの防災活動訓練を行っており、地区全体として防災関係に力を入れています。また、現在設立準備中のまちづくり協議会や他団体と連携しながら少しでもあたたかさを感じられる地域づくりを目指します。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	48名 3名	■町内会・自治会・区長会等	45団体
	■まち協の設立	—	■高齢クラブ	10クラブ
			■子ども会	13団体
			■自主防災組織	29組織

独居高齢者が市内で最も多いこともあり、民生・児童委員をはじめとする多様な福祉活動が求められる地区です。そのような状況に対応できているのは各関係団体の協力体制が確立しているからです。小中学生等を対象に地区社協メンバーが役者となって認知症の理解のための寸劇を行うなど、若い世代の後継者作りにも力を入れています。スプロール化という課題をかかえながらも住民の地区行事への協力率が高いことや、地域活動に若い世代も入ってきているなど、地域力の強さが引き継がれていると考えられます。そがの子まつり、福祉講座など地域のつながりや福祉教育を重視した地区社協の活動は、今後さらに進む都市化や高齢者人口増加などに対する重要な予防活動として期待されるでしょう。

ココがポイント

